
あの空を覚えているかな

歩美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あの空を覚えているかな

【Nコード】

N6753N

【作者名】

歩美

【あらすじ】

三北中学校に通う鈴。夏休みに友達とカラオケに行く事になり同じクラスの男子、秦君と恋愛関係に！？

く蒼い青い綺麗な空

『夏休み』

七月二十日、私達の中学はやっと夏休みに入る。

長い長い校長先生の話聞き終わり体育館から出て教室へと向かう。

私は親友の輝流と泉と一緒に教室に向かっていた。

「鈴!!」

二人と会話をしていると後ろから自分の名を呼ばれて振り返る。

ー水川鈴ー

今年の4月から中学二年生になった。

どちらかといえば可愛いがこれといって美人でもなかった。

緩く毛先がカーブしていて淡い茶色の髪を胸のあたりまでなびかせている。

「どっしたの?」

鈴は廊下を走ってきた自分の友達、山下夏に声をかけた。

「明日から夏休みでしょ？カラオケ行かない？」

「カラオケ？いいけど、泉と輝流もいい？
私、コノ二人の前じゃないと歌えないの」

「ウチも！？」

「私も？」

後ろで二人が驚いている。

輝流はグチグチ言いながらも了承してくれた。

だが泉は用事がある、といわれて無理になってしまった。

「本当にゴメンね？」

顔の前で手を合わせて誤る泉。

「大丈夫だよ。急に誘ってごめんね。
夏ちゃん、後誰が来るの？」

鈴は泉に軽く答えて夏に声をかけた。

「えーとね女子は同じクラスの唯ちゃんと美喜ちゃんと加奈だよ。男子は同じクラスの森田君と秦君と二組の藤原君と吉田君。」

合計、10人だよ」

「男子も一緒に行くの？」

「もちろん！じゃあ明日十時に図書館前に集合ね！」

「「わかった、バイバイ!!」」

私と輝流の声がかぶった。

お互い顔を見合わせて笑いあった。

これから――

楽しい――

夏休みが――始まる――

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6753n/>

あの空を覚えているかな

2010年10月10日06時37分発行